

# ともにも新聞



第3号

□二〇二三年(令和四年)九月

□輛の浦学園 学園会

## 『輛てらす』は今!

今年七月にオープンした輛町町並み保存拠点施設「輛てらす」。一日に平均して三五〇人、多い日だと五〇〇人近い方が訪れるそうです。県外から輛に足を運ぶ人も多く、最近では、神奈川県や大阪府から来られた人もいます。



輛てらす一階には、日本遺産や町並みについてたくさん紹介や輛町内の地図が展示されているので、そこで輛についての情報を知ってもらってから町に出るという観光客の方々も増えています。



輛の祭り紹介スペースには、今年の秋祭りや実際に使われた西町のチヨウサイの山車も展示されています。また、祭り紹介スペースと日本遺産の紹介スペースには、プロジェクトが流されているので、誰でも簡単に輛について知ることができるようになっています。

二階には、町並み保存に関する相談窓口「輛まちなみ再生生活相談所」があります。ここでは、おもに空き家の活用相談や伝統的建造物の修理相談などができるところになっています。輛への移住を考えている方が多く訪れるそうです。小さな子どもが上がって遊べるスペースや授乳室が設けられているため、家族連れの観光客の方にも人気の施設になっています。

また、スペースを使って何かしたいときは、申請をするだけで誰でも無料で貸出ししてもらえようになっています。輛の浦学園の作品もどんだん展示させていたように計画をしています。現在は、「TOMONOURA de ART 2022」の展示もされています。観光客の方でも気軽に立ち寄って楽しめる「輛てらす」。みなさんもぜひ行ってみてくださいね。

(九年 古山 朝子)

## 「絆」リレー NO3

山川文音さんから  
バトンが渡りました。



「輛まちづくり会社」が手掛ける吉本家にかがいがい、代表の渡邊高章さんと吉本和之さんにお話をうかがいました。吉本家の中には、電話など昔使用していたものが大切に残されていたり、ネットを活用して仕事ができるような部屋が用意されていたり、新たな居住空間づくりがされていました。

渡邊さんは、大学卒業後東京で都市開発や投資ファンドの運用に関わってこられました。その渡邊さんに、四十一歳の時、転職が訪れます。「これは、自分がしたかった仕事ではない。本当はまちづくりの仕事がしたい!」という自分の中にある真の目的に付き、二〇一八年、この会社を設立されました。輛の魅力は、「豊かな自然」「美しい風景や町並み」「おいしい食べ物」、それに、人々の様々な活動が創り上げてきた輛の歴史。その貴重な財産を生かしながら、輛の町をよりよくしていきたいと熱い思いを伝えてくださいました。



お話の中で、「輛の浦に移住したい。」という人達が増えていて、その理由の一つに輛の浦学園の存在もあることを知り、うれしかったです。一年生から九年生までが、しっかり関わり合いながら成長していける学園にしていきたいと改めて思いました。

(七年 根本 健伸)



## ありがとうを伝えたい

NO3



登下校の時、毎日黄色い旗を振って私たちの安全を守ってくださいっている右下忠雄さん。それだけではなく、右下さんは学校の掃除をしてくださったり、学校の活動に協力してくださったりしています。右下さんは、六十歳から約二十年の間、このような活動をしてくださいています。

この活動を始めたきっかけは、健康のためにも体を動かしたいという思いからだと言っていました。また、自分が掃除をすることで、子ども達が勉強したり遊んだりする時間ができるからだとも言っていました。



右下さんからメッセージがあります。一つ目は、「外で遊ぶ子が少なくなってきたので、もっと外で遊んでほしい。」二つ目は、「いろんな経験をしてほしい。」三つ目は、「失敗をして、そこから学んでほしい。」というメッセージです。右下さんは、私達のことをよく見てくださっていることが伝わってきました。

天候に関係なく、雨の日もカッパを着て交通安全活動をしたり、掃除をしたりしてくださいていることに感謝します。そして、子ども達だけではなく、輛の人の安全まで守り、輛こども園でも同じように活動してください。すごいと思います。秋になりました。取材を通して、私達にできることはないか考えるきっかけになりました。美化委員会が中心になって考えています。

(六年 沖浦 帆奈)



